

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォート有限会社		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505-5		
自己評価作成日	令和2年3月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 2 年 3 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる田園風景の中で、ゆったりとした時間を過ごしていただいています。四季の移り変わりに合わせて、外出や行事を計画することで気分転換を図り、楽しく過ごしていただいています。ボランティアの踊りなどがある時などは、近隣の皆様にチラシを配ったり、回覧板を回していただき、ご近所の高齢者の方も一緒に楽しく過ごしていただいています。井原市が奨励されている百歳元気体操を取り入れて、筋力アップし転倒防止に努めています。地域の行事開催時には積極的に参加しています。ご利用者と毎日ゆったりと過ごすことで、家族的な中にも個人のその人らしさを大切に介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2005年に開設してから15年。自然に包まれ大きなガラス戸の居間で、太陽光を浴びながらゆったりした時間が流れています。時と共に変化する暮らしに伴い生じてくる課題の中で、試行錯誤しながら新たに地域との交流、ボランティアの受入れ等、外部との繋がり、又入居者、職員間の関係継続の改善等に取り組み活気あるグループホームを目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	井原市の各地区で開催される行事にみんなで参加し、楽しんでいる。ご利用者お一人お一人の気持ちに寄り添いながらご自宅にお連れしたりもする。	個人の気持ちを尊重し、入居者に寄り添う介護を目指すため、ミーティングなどでそれらを実践するため理念の共有と情報の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアが来られるときは近隣にも案内を出し一緒に楽しんでいただいている。地域の行事や神社の祭り、初詣などにも行く。	催しの有るとき、地域の住民が参加するようになりまた、季節の野菜を気軽に届けてくれる人もいる。少しずつ、地域の一員として専門性を生かし、日常的に交流できるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々が来られた時には認知症のご利用者や交流することで理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や介護保険課の方からいただく情報をもとに、サービスにつなげている。地域の行事や筋力アップ体操など。	行政や民生委員、自治会長等の参加があり定期的に行っています。その場で得た情報を生かしながら支援に取り入れています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただくことで現状報告し、分からないことは積極的に電話や出向いて聞いている。	行政の担当者の定期的な移動はあるが、引き継ぎがきっちりしてあって、担当者が変わっても気軽に相談できます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は除き玄関を施錠することはない。職員用トイレにはいつも身体拘束禁止についての資料をみえるように掲示している	身体を拘束しなければならないような入居者はいないが、言葉による暴力や拘束にならないよう、職員間で注意し合い支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お互いに虐待がないか職員同士で、利用者の身体を入浴時チェックするとともに、トイレに虐待についての資料を掲示し目に付くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はそのたぐいの研修には参加しては いませんが、成年後見制度を利用されたほう が良いのではと思われる利用者もおられ るので、学び活用できたらと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書などはすべて読み 説明し、質問疑問には答えて、納得いた だいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	ご意見箱、運営推進会議への参加、日ごろ 面会に来られた時にご意見をお伺いするな どしておりいただいたご意見は検討し活用し ている。例えば、家族では外出させてあげら れないけれど、施設でして下さるので助か るなど。	入居者家族とのコミュニケーションを大切に、 細かいことまで拾い集め気持ちを汲むように 努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にてスタッフの屈託のない意見を 聞き、取り入れている。	月に1回、全体会議で入居者の様子などでの 気づきを発表したり、意見を出し合って職員 間の共有を図り、支援に取り組み、管理者は 職員の意見を反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、出来る事は積極 的に改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	施設内の研修は出来ていないが社外研修 の案内は提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	井原市介護サービス事業者連絡協議会他 研修等で、他の事業者と連携を取り情報取 集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の話されることに傾聴し、共感することに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた段階で、何に困っておられるのかなぜ家庭で介護ができないのかを傾聴し、施設でその問題に対してどのように対応できるかを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済的な問題などで特別養護老人ホームを本当は希望されているならばそちらへの入居申し込みも出されるように勧め、空きができるまでということ、入居される場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができそうなことは手伝ってもらっている。お盆吹き、洗濯物干し、たたみ、新聞紙たたみなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は、その時々のご様子をお伝えし、ご希望をお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時にはご自宅にお連れする等し、近所の人などとも話していただいている。	ボランティアで来所する人の中に、知り合いがいて喜んでいる人もいます。時折見せる過去の生活ぶりを聞いて、その人に合わせた関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすい人同士で座れるように席を工夫したりスタッフも交えて会話が進むように、話題を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、入院などされていれば訪室し話しかけている。外で偶然会った時も挨拶をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランを立てる前に本人の気持ちをお聞きする。何気ない普段の会話から本人の気持ちをくみ取るようにしている。	希望や意向をはっきり持っている人は少なく、言える人も少ない中、一人ひとりの生活歴や家族の話を聞き取り、本人の態度や会話から「ノー、嫌」の気持ちを拾い集め、汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集に努めている。本人の話も聴いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現場で介護にも携わることで現状把握ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所されているときに現状を伝え、家族の要望をお聞きするとともに、それを職員に伝えて検討している。福祉用具の事業所に相談することもある。	介護計画は職員からの情報・日々の記録家族の希望も取り入れ、「本人が暮らしやすい」を基に現状に即したプランの作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を毎日記録し、申し送り時に話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事形態や排泄状況など変化することも多く職員と話し合いながら、時には医師に相談しながら変更することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	井原市で奨励されている百歳元気体操を取り入れることで、転倒予防に取り組んでいる。近隣の方を招待し、ボランティアの踊りや、クリスマス会を行っている。利用者と地域の方が交流できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常の早期発見に努め、主治医に受診対応している。往診時には日ごろの様子を伝え、アドバイスを受けている。	主治医が月に一度、往診に来ます。異常に気がついたら相談し、早期発見に努めています。歯科の往診はあるが、他の専門科は職員と又、家族の協力で受診できるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフから相談を受けた場合、かかりつけ医やかかりつけ薬剤師に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、毎日病院へ行き必要な時は看護師や医師に状況を聴いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でご意向はお聞きしてはいるが、実際重度化した場合は医師からの状態説明があり、そこで再び家族のご意向を確認している。家族が望まれるように対応している。	入居時、重度化の対応について説明しているが、状態の変化に応じてご家族の意向も変わるため、その都度家族の気持ちに添えるよう細心の注意をしながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車を要請することや、連絡先などは伝えているが、初期対応の訓練は特に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回避難訓練を行っている。	年2回、地震と火災を想定して避難訓練を実施しています。火災の時は消防署も参加し、避難できる方法を身につけるよう努めています。	昨今、災害の多い中、災害や時間帯によって対処方法は異なるので、運営推進会議等で話し合いながら、色々な場面を想定して、マニュアルを作成されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が言われたくないような言葉がけはしないように注意し、よくない言葉がけを聞いたときは注意している。親しくなると問題が起こりやすいため注意している。	馴染みの職員が馴染みのある入居者を支援する難しさを痛感しながら、入居者が円満に暮らせるよう努めている様子が窺えます。	居心地良い環境作りに努めている様子が窺えますが、さらに、研修等で職員全員が専門知識を身に付けていかれる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選択できるような言葉をかけるが、理解に乏しく、自分では決めかねることが多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人のその日の様子を見ながら個別レクを提供しているが、食事時間もずらすことはある。入浴時間は行事等の都合により、施設の都合で変更することがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の好みを言われる方は、自由に着ていただいている。本人が望まれるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をしながら、話をしている。準備の段階では、おしぼりを巻いていただいたり、片付けではお盆を吹いていただいたりする。	一人ひとりできることをしながら、栄養管理された食事を嚥下能力に応じた形態で食し、行事に合わせた季節の食事を楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事の摂取状況、摂取量を記録し、必要に応じて声掛けを行い、体調管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがい等人によって異なるが、一人一人に対応している。夜間は入れ歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の状態や排泄パターンに合わせたトイレ声掛け、誘導やおしめ、パッドこうかんを行っている。	昼夜問わず、本人本位の残存能力に応じた排泄習慣を活かした支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に特に注意するとともに、運動を行って腸が動きやすくしている。必要に応じて処方された下剤も投薬している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大体週2~3回にしているが、拒否がある日には変更することもある。身体状況によっては連続入浴の時もある。(風呂好きな人)	季節に応じたゆず湯、菖蒲湯などを楽しみながら、体調をみて、負担のすくない入浴に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、体調や希望に応じて横になることもある。夜間は眠剤を服用されている人など、人によって入眠時間が異なる。ほとんど鎮民されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの約定がみられるようにしてあり、何の薬なのか、追加で出た薬は何なのかわかるように申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業として塗り絵や折り紙、編み物、脳トレをしたり、カラオケやDVD、数字パズルなどもたのしんでおられ、季節ごとの行事やお出かけもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅にお連れしたり、気候が良ければ戸外に散歩、季節の花を見に行くなどしている。	重度化が進む中、日常的な外出は難しくなっています。車椅子の入居者も、日光浴を兼ねて外気を浴びて気分転換できるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は持ってきておられない。保管ができないため。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来ることはまれにあるが、書かれることはない。必要に応じて電話に出られることはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心がけており、明るいフロアを提供している。利用者が好みの音楽を流したり、壁には思い出の写真を張ったりなどして、話に花が咲くこともある。	明るく広いフロアから見える景色は、田畑が広がり四季を感じられる。共用空間はそれぞれ明記されていて、迷うことが無いようになっています。お風呂も広く、浴槽は二人で左右から介助ができ安心した入浴ができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を工夫し、ゆっくりと話をしたり、一緒に手作業を楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が用意された寝具や家具をそれぞれ用意されている。職員は清潔整理整頓に心がけている。	家族の協力の下、安全・安心に過ごせるよう工夫している様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアやフリー、床が滑りにくいような床材トイレには絵を張り、分かり易く工夫している。		